

第6回福島問題予備研究会 議事録

日 時： 平成27年6月29日（月）15：00～17：20

場 所： 化学工学会会議室

出席者： （敬称略、順不同）小林、横堀、中尾、橋本、郷、松井、鈴木（記録）

討議資料

#6.1 福島第一原子力発電所における汚染水処理技術、池田昭、山本誠二（東芝）、
（第52回関東技術サロン講演会資料）（提出：松井）

#6.2 第6回福島問題予備研究会討議用メモ（提出：横堀）

1. 連絡事項、近況報告

*化学工学会福島問題研究会対応；提言（2）（15.5.25）に基づきSCE-Netよりの申し入れを行ったが、特別の反応はなかった。（小林）

*第52回関東技術サロン講演会出席報告（松井）

2. これまでの活動結果の整理

*F1視察結果報告：報告書（横堀、2015.6.27）参照

*視察を終えて（見学して感じたこと）

（小林）皆さん頑張っていることはうかがえるし、すでに女性の明るい姿もみられるが、化学プラントの管理視点からはかけ離れた状況で、人災が起こるのは当然。

別の視点だが、壊滅的被災した1~4号機とかなり生きて残った5~6号機の差は、設置標高差（10メートルと13メートル）と6号機の非常用ディーゼルの冷却が空冷で上部ダクトからの吸気であったことであり、防災の答えがそこにある。

（橋本）化学工場とは別世界。タンク間距離、堰等、作業性が悪い。ブリッジ、梯子等もない。乾式キャスク等の近辺に立ち入り禁止標識、放射線管理標識等なく、全く不備。プロジェクトエンジニアリングの観点で欠落している。安全統括者は居るのか？

（郷）化学工場の定修のイメージからは程遠い。放射線の取り扱いは大変。4年経っているとは思えない。原子炉建屋に近い方がむしろすっきりしている印象。

（鈴木）事故直後のマスコミ情報からは整理が進んでいる印象。1,000基ものタンク群のバルブ操作がすべてタンクサイドの手動バルブによるのは驚異的。誤操作が起こるのは当然。配管を伸縮ポリ配管から金属配管に変えつつあるのは進歩。

（中尾）線量が落ちてきた結果、意外と接近できた。事故直後の戦場の様相のままも多い。長期的視点で整理することが必要。「何も生産していない化学プラント」とは、あるべきイメージを考えるべき。

（横堀）報告書に書いた通り。タンク1,000基の配置等、無計画、無秩序。事故を想定しない発想の結果を表わしている。スペースが広いが、タンク設置のスペース等限界か。

4. 今後の活動の方向性（議論のポイント等を列挙）

*化学工学会だけでは何も出来ないなので、他の学会（原子力、土木等）と組む？

- * 役所の壁が強固で、全体が一体化して取り組む体制が期待できない。
- * 沼田氏経由で日立、東芝に関心を持ってもらうのが近道か？
- * ゼオライトチタン酸塩触媒に関して、触媒会社と触媒使用者の企業の打ち合わせが実現したら、参加できるなら参加したい。
- * 分離プロセス工学は化学工学の専門分野なので、トリチウムの分離、減容化について政治問題とは独立して技術面で何らかの主導性を発揮する義務があるのでは？
- * 処理も放流も出来ず、50～60年このままホールドし、自然減衰を待つのであれば、タンクの整理と長期保守管理体制の構築等がテーマになるのでは？
- * 私たちの議論も信頼に足るマスバランス、それに付随する放射能バランスもないことから話が拡散しがちである。ここにも提案の余地があるのでは？

4. 次回予定

8月4日（火） 15：00 から、化学工学会会議室

以上